令和3年4月8日

保護者会資料

荒川区立第三中学校長
小柴　憲一

今年度の第三中学校について

1　経営方針の柱

(1)「社会を構成する一員」としての自覚を高めるための教育活動の推進
(2)「一人一人の生徒を大事にする」を根底とした指導・支援の充実
－この2つは変わりません－

2　教職員の異動

（別紙「三中だより」からの抜粋をご参照ください）

3　子どもの何をほめ、何を戒めるか

●「今回はいい点数だったね」「タイムが伸びたね」⇒×
●よく「過程を評価しましょう」と言います。なぜでしょう。
●結果に行き着くまでには、我慢し忍耐強くすること、計画的に実行しようとすること、他者と折り合いをつけること、人や自然など物事・事象に対して気付くこと・・・・・・等々、点数や記録には表れない人の内面の部分（それを非認知能力と言います）が、その人を様々な面で成長させるからです。
●天が二物を与えるのではありません。自分で二物を獲得する、その根源が非認知能力です。
●だから、私たちも過程を評価するのです。
●「試験にかかわらず、毎日決まった時間に勉強してたもんね」「伸び悩んだ時期もあきらめずに練習続けていたもんね」

4　特別支援学級「三組」のスタート

●三組の教育スタイルは、子どもたちの実態を踏まえ徐々に整えていきます
●最も大切なことは
①三組の子どもたちが、「今日も学校に来て良かった」と感じること。
②すべての子どもたちが、障がいはその人の個性であると捉え、個性を理由に理不尽な扱いを受けたり、不合理な思いをしたりすることは絶対に許されないという人権感覚を高めること。また、都内には様々な人権課題があることを学習し、万が一、身近な誰かの人権が侵害されていることを察知したとき、その問題性を認識して、人権侵害を解決せずにはいられないという人権意識を強くもつこと。

●そのために、三組の子どもたちが同じ学年のA組やB組などと交流する機会を多く、できることなら日常的につくり、様々な活動を一緒に行う経験をさせること。

5　感染症に対する本校の考え方

●感染してはいけないと分かっていて、どんなに予防対策をとっていたとしても感染してしまうことはある。

●感染してしまった人は、ご自身の健康回復に全力をあげてほしい。

●誰かに感染させてしまった人は、感染症との闘いのほか、強い自己嫌悪があり、自分を責め、家族共々苦しい日々を送ることになってしまう。

●だから感染してしまった人を責めないでほしい。たとえ、その影響で何らかの学校行事が中止等になったとしても。

●そこで、そうならないためにも、少し具合がおかしいと感じたら出勤・登校を控えてほしい。（本校教職員へ言っている言葉「誤った責任感は返って無責任とも言われる」）

●また、感染した方、濃厚接触者として特定された方々が、医療・保健所による診察や問診の結果回復したと認められ、出勤・登校開始となった場合はあたたかく受け入れてほしい。

6　新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う学校行事

●区教委より、土曜日の教室の授業を見ていただくなどの公開中止は継続

（本校からの「生徒の顔写真、作品の学校ホームページ、保護者限定ライブ配信、校内への掲示に関しての同意書」で、皆様からご同意をいただいた場合は、保護者限定ライブ配信実施の予定）

●また、運動会・移動教室・修学旅行・勤労留学等については今後通知する

7　三中てらこやについて

●昨年度同様、帰りの学活・清掃が終了後16：00～16：40に実施

●自習コースと検定コース

●自習コースは、タブレットでｅライブラリィか宿題や自分で取り組んでいる問題集など

●検定コースは、各自が自分で選んだ出版社の問題集などを用意する

●募集・教室割り振り・座席決め・出席簿作成・欠席者への連絡や指導は学校で行うが、監督などは業務委託する

8　女子スラックスについて

●令和4年度の導入は確実。

●現在、今年度の冬に向けて早期導入ができないか、製造・販売等、各業者と折衝開始。

●結果については、1学期末の保護者会で報告予定。